

県外派遣報告書

審判員名	九里亜紀		所属	中体連
大会名	平成25年度全国中学校体育大会 第43回全国中学校バスケットボール大会			
期間	平成25年8月22日(木)～25日(日)			
会場	浜松アリーナ・小笠山総合運動公園エコパアリーナ			
スケジュール				
期日	内 容		場 所	
8月22日(木)	審判会議		グランドホテル浜松(孔雀の間)	
8月23日(金)	予選リーグ		浜松アリーナ・エコパアリーナ	
8月24日(土)	決勝トーナメント1・2回戦		浜松アリーナ	
8月25日(日)	準決勝・決勝		浜松アリーナ	
審判会議、レクチャー内容				
<p>講師の御手洗亮氏(大分県)よりレクチャーがありました。A級からAA級に昇格されるまでの道のり、全国大会に参加するにあたっての準備、フィジカルの大切さ、今年度の大分インターハイでのエピソード、そして最後に、中学校というカテゴリーに甘んじることなく、選手と審判というバスケットボールの仲間としてやっていくことの大切さ、義務教育の中での大会なので、熱い気持ちと冷静な判断で臨んでほしいというお話をいただきました。また、環境への適応能力も求められているので、大会期間中は食事・睡眠等々に気をつけ、審判に専念していくこと、個人ではなく、全中の審判として行動していくことが今大会も求められていることを確認しました。</p>				
予選リーグ				
担当試合	期 日	8月23日(金)	男子 女子	女子
	対戦カード	戸次(大分県) VS	梁瀬(兵庫県)	主審 副審
	相手審判	吉田 康人氏(石川県)		
ミーティング内容 主任 田邊 真由美氏(本部)				
<p>ゲームの入り、ファーストコールで主審が鳴らしたケースを感じ、同じ基準、同じ質のファールは取るという入り方をしなくてはいけない。ルーズボールの判定について、双方の選手はボールに向かっているが、向かいながら手や身体の扱いはどうか、シリンダーの概念と照らし合わせて判定する必要がある。</p> <p>後方からの接触に対する判定の準備が薄い。リードの動きにもう一步の努力が必要であるとともに、トレイルの場合はペネトレイトすることが必要。</p> <p>今の自分の審判をより安定させる為にも、なんとなく判定するのではなく、競技規則やマニュアルに照らし合わせて、「〇〇〇だから、自分は判定した」と言えるようにしていくことが必要。ルールブックに書かれていることを大切にしていきたい。</p>				
全体の感想				
<p>今大会出場校の中学校3年生は、東日本大震災で全ミニが中止になった代の選手でもあり、中学校3年間分以上の思いを持って全国大会に参加している。ということも考え、準備し、臨みました。予選リーグでいただいた割当は、決勝トーナメント出場権を得る為の決定戦でもあり、緊張感のあるゲームでしたが、私自身が課題としている「ゲームの入り」ということに関して反省が残ってしまいました。昨年度の埼玉全中、ジュニアオールスター、静岡全中と経験をさせていただく中で、自分自身の弱点が見えてきたように思います。その弱点を克服するためにも、日々の審判活動を一層大切にしていきたいと思えます。</p> <p>この場をお借りして、全国大会期間中お世話になりました静岡県バスケットボール協会、静岡県中体連の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>そして、今回全国大会審判員という機会を与えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、今後も県内の各大会に向け、日々精進してまいります。</p>				